

顔の見える木材供給体制構築事業

【テーマ】中・大規模建築物への木材供給体制構築

背景と目的

【背景】

- ・ウッドショック後、資材高騰で戸建住宅が建たず、木材需要が低迷。
- ・SDGsの環境意識が高まる中、「都市(まち)の木造化推進法」が制定され、木材に追い風が吹いている。

【目的】

中大規模建築物への木材の安定供給体制強化を図るための諸課題を明らかにし、解決に向けた具体的取り組みを実施する。

対象とする木材・製品、川上から川下までの流通の考え方など

- 徳島県の森林面積315千ha。人工林は183千haのうちスギは73%を占め蓄積量は72,792千m³と全体の86%。その有効活用を図る。
- 川下側の設計・工務店のニーズを把握し、産地間協調の考え方も取り入れ、国産材全般のボトムアップを図ることとしたい。
- スギ材が大径化しつつあり、大径材仕様の製材機械導入や生産性向上、丸太の低コスト調達のほか、伐採跡地対策等を視野に入れる。

写真・図等



木造建築の風が吹いている！
全国初「あrawashi」4階建県営住宅



材料の安定供給と森林資源の持続性が課題！

事業実施主体

徳島県木材協同組合連合会

実施体制・参加団体等

○徳島県サプライチェーンマネジメント推進フォーラム
(事務局 徳島県木材協同組合連合会)

主な会員

【川上】徳島県森林組合連合会、公益社団法人徳島森林づくり推進機構、徳島県素材生産流通(協)

【川中】徳島県木材市場連盟、(株)日新 四国工場、ウッドファースト(株) 徳島県プレカット協会

【川下】(一社)徳島県木の家づくり協会

※協力：とくしま木造建築学校運営協議会、徳島県木造住宅推進協議会

事業内容(本事業における具体的な実施項目)

【木材の安定供給システム構築】

合板用B材丸太や板挽の4m採材が主流の徳島県において、建築構造材、特に中大規模建築物に必要な材料供給や主伐後の資源持続性等について川上～川下間の関係者が参加した「協議会」で合意形成を図る。

【市場等の機能強化】

製材メーカーと需要者の間に位置する「製品市場」の役割を強化するとともに、「とくしま木造建築学校」等の機会を通じて設計者等と情報共有し、顔の見える関係づくりを行う。

【中・大規模木造建築の課題検討】

公共・非公共部門の施主(県、市町村、企業)や設計・工務店・プレカット工場等が木造建築を手がける際の課題と解決策について明らかにし、低迷する住宅市場に変わり、需要展開する仕組みを構築する。

スケジュール

7月

8月

9月

10月

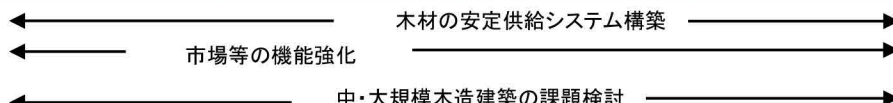
11月

12月

1月

第1回情報交換会

専門部会で
調査・分析



木材の安定供給システム構築

市場等の機能強化

中・大規模木造建築の課題検討

第2回情報交換会